
魔法少女リリカルなのは 転生した放浪者

AGE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 転生した放浪者

【Nコード】

N2082BA

【作者名】

AGE

【あらすじ】

放浪者 月影 音夜。彼は、ある組織と戦い、その末に死んでしまった。だか、気がつくと妙な場所において、目の前には、女神と名乗る女性がいて…この小説は、作者の処女作ですが、ずいぶん遅い更新で、なおかつパクリまくりの超駄文であり展開も遅いです。原作崩壊、オリ主チート？な小説ですが、それでもいいという方は読んでください。

主人公設定（前書き）

どうも、AGEです。本編の前に、主人公設定です。

主人公設定

主人公設定

名前：月影 音夜

性別：男

年齢：転生前〃17才 転生後〃5才

身長：なのは達と同じくらい。

転生前は、169センチ。

体重：なのは達より少し軽い。

転生前は、60kg。

見た目：テイルズ オブ ジ アビスのフローリアンを、黒髪
紫目にしたかんじ。

好きな事：仲間、友達、家事全般、機械づくり

嫌いな事：怪談や心霊写真などのホラー系のもの、仲間や友達が傷
つく事、人の命をないがしろにする人または組織。

特技：料理、機械製作、声帯模写、

本作の主人公。本作の舞台とは違う地球（と言っても、技術力はテ
イルズやFF零式並の技術力と文化だが。）の出身だったが、その
世界を、イルミナスという組織に滅ぼされ、聖界にたまたま逃れ、

そこで力を得て、故郷と同じ犠牲を出さない為に、世界の放浪者になつた青年。

イルミナスを潰した際、負っていた致命傷が元で死んでしまつたが、実は、神の暇つぶしで人生を改悪されていて、本来は、故郷も失われず、音夜自身も、放浪者にはならないはずだつたらしい。そのため、そのお詫びとしてリリなのの世界に転生された。正体は精霊ラタトスクであり、そのため寿命が存在せず、身体的成長も15才のときに止まっているが精霊であるため、感覚や運動能力は、常人を上回っている。しかし、元は人間なので、人の心も持っている。人間だつた頃の記憶を一部欠如しており、「月影音夜」という名前はローレライにつけられた名前。

性格：口調が荒いが、実はとても優しい。基本的には大人びているが、幼い頃に放浪者になつてからというもの、戦つてばかりの生活だつた為に娯楽施設には行つた事がなかった。その為にそういう所に行くと、子供のようにはいしゃいでしまう一面も。また、同じ理由で、恋愛とも無縁だつたため、鈍感。

聖界：音夜が地球崩壊の際にたまたま逃れた、数多の精霊と、音夜と同じように故郷の世界が失われ、たまたまこの世界に飛ばされた幾らかの人々が過ごしている世界。音夜はこの世界で剣術や魔法、2丁拳銃を学んだ。音夜が精霊ラタトスクに覚醒したのも、この世界での事。

主人公設定（後書き）

音「酷すぎ。」

開口一番がそれ？

音「他にどう言えばいいんだよ？つーかデバイスとかは？」

ああ、それは次だ。

音「はあ、まあ早めに投稿しろよ。」

こつこつ感じですが、宜しく願います！

音「願います。」

デバイス等の設定（前書き）

遅くなつてすいません？デバイス等の設定です。
しました。

1月8日、改稿

デバイス等の設定

デバイス：カノンノ

AIは少女型。明るく快活で、優しい。

待機状態、戦闘時共に額の左側にある宝珠。（形状は、テイルズオブ シンフォニア ラタトスクの騎士のマルタのラタトスク・コア）

聖界で、音夜ことラタトスク専用^に製造されたデバイス。本来は、戦闘時には何かしらの武器になるはずだったが、音夜が宙の戒典を具現化したため、待機状態から変わらないようにした。ちなみに音夜の額に埋まっている理由は、デバイスと一体化してその性能をフル活用するため。デバイスの意志で人間状態になる事が出来る。（ちなみに人間状態の容姿は、テイルズ オブ ザ ワールド レディアント マイソロジー3のカノンノ・グラスバレー）

バリアジャケット

テイルズ オブ グレイセスのアスベルの服を全て黒く、服のラインを全て赤くした感じ。

武器

宙の戒典^{デインノモス}

音夜が放浪者になった際具現化された、精霊ラタトスクの霊剣。（この時に、音夜が精霊ラタトスクである事が発覚した）リゾマータの公式という術式が組み込まれており、あらゆる力を無力化出来る。超振動や紫紺の炎の力を高める力がある。刀身は赤色。（形状は、テイルズ オブ ヴェスペリアのものと同じ。）

双銃リグレット

音夜が聖界の技術で製作した2丁拳銃。半永久機関を搭載しており、魔力切れを全く起こさない。名前の由来は、「故郷を守れなかった際すぐ後悔したため、二度と後悔しない為にこの銃を使う」という決意を込めて、この名前を付けた。（形状は、2丁ともテイルズオブザワールド レディアント マイソロジー3のガンマンの上位レディアントのデビルショットと同じ。）

カイザブレイガン

テレビであった、仮面ライダーカイザの武器を音夜が独自に開発したもの。オリジナルからの変更点は、メモリーをさした状態でブラストモード時に引く部分を引けば、【exceed charge】と音声で鳴るようにした。

サソードゼクター

カイザブレイガンと同じく、テレビであった仮面ライダーサソードの武器を音夜が独自に開発したもの。オリジナルからの変更点は、ゼクターがついてもライダーにはならない事と、ゼクターはステルス機能を搭載した、偵察機になった事と、ライダースラッシュの音声でポイズニックスラッシュに変更された事。

使う魔法や技

テイルズやFF零式の魔法や技、リンクアーツで得た魔法や技など。

能力

超振動：音夜の持つ、あらゆる物質を消滅、または再構成する力。本来は人間の持つ力ではなく、精霊ローレイヤ、ラタトスクが持つ力。しかし、音夜は精霊ラタトスクである為この力を遺憾なく使いこなしている。

紫紺の炎

精霊ラタトスクのみ宿す力。闇の力が宿る炎であり「光すらも飲み込み、全てを焼き尽くす闇」とも言われるラタトスクの代名詞たる能力。

ネットメモリ
星の記憶

音夜の希少能力^{レアスキル}。世界の記憶とリンクする事で、その世界の情報を闇に葬り去られた部分までも知る事が出来る。応用して、改悪されたものの本来の情報を知る事が出来、しかも修復する事も出来る。ただし、改悪されたものを修復した場合、一時的に全ての力が使用不可能になるというデメリットが存在する。

リンクアーツ

星の記憶と同じく、音夜の希少能力。敵味方問わず、他人の魔法や技を一度でも目にすれば、そこから対象の他の魔法や技の情報を知り、自分のものに出来る能力。また、その際、対象の持つ武装も使用出来る。（模造品だが）

例、「リンクアーツ 高町なのは」を行えば、なのはの魔法を使用出来、さらにレイジングハートも音夜用のが現れる。

デバイス等の設定（後書き）

音「遅い？」

ごめんなさい？

音「俺言っただよな？早めに投稿しろって。」

本当にすまん！後から思いついた設定があつてさらにそつから前回の主人公設定を修正したら遅くなってしまったんだ。悪かった！

音「反省しているならいい。次はもっと早く投稿しろ。」

はい！読者の方々も、すいませんでした！

プロローグ（前書き）

プロローグです。まあグダグダですが。

プロローグ

「……………？何処だ…此処は？そもそも俺は……………死んだ筈じゃ無かったのか？」

俺の記憶が正しければ、イルミナスを潰した時に食らった致命傷がたたって死んだ筈。なんでこんな一面真つ白な所に？……………あつ

「そうか、此処はあの世か？それなら説明が着くな。俺は死んだんだから。」

「いいえ、此処はあの世ではありません。」

「？ だ、誰だ？」

いきなり声があったので、後ろを向いた。すると、何時の間にか女の人があった。

「驚かせてすいません。私は運命を司る女神です。ちなみに此処は天界です。」

そう言つて、微笑む女性…女神。あながち嘘じゃ無さそうだ…

「そうか…じゃあその女神が一体何の用だ？」

まさか、女神直々にあの世に送ってくれるのか？」

「いいえ、貴方に謝罪しに来ました。」

……………は？謝罪？

「ちよつと待て…どういう意味だ？俺は神に謝罪されるような事をした覚えが無いんだが？」

すると、女神は少し表情を暗くしながら口を開いた。

「そうでした……………貴方は被害者なのでした…なら、単刀直入に申します……………貴方の人生は…邪な神の暇つぶしに改悪されたものだったのです……………」

「は……………？どういう事だよ？じゃあ何だ？俺のあの人生は全て嘘だったってのかよ？なら、本当だったら別の人生を歩んでいたってのか

？」

「ええ…紛れもない事実です。ですが、そうなった過程をお話します。落ち着いて聞いてくれますか？」

俺は頷いて、了承の意を伝えた。

「始まりは、ある一人の邪な神が人や世界の人生を改変する能力を得た事から始まりました。その頃その神は退屈しており、何か面白い事は無いかと考えていた頃でした…そんな時に先ほど言った能力を与えられました…勿論その神は、暇つぶしの為に悪用しました…その被害者が…まだ生まれればかりの貴方だったのです…その結果…貴方は辛い人生を歩み、貴方の故郷も滅びを迎えてしまいました…勿論その神は、無限地獄に送られました…ですが…誰も貴方の人生を修復する事が出来なかつたんです…」

「……………本来なら…俺はどういう人生を歩んでいたんだ……………」
ただ一つ……………それだけは知りたい……………」

「……………本来なら、貴方は幸せな人生を歩む筈でした……………あの世界も消滅せずに、貴方も人間として生きている筈でした。精霊にも放浪者にもならず、人間として生きている筈でした……………」

そっか……………ん？

「あれ…？俺の人生が改悪されたのは分かったが、何でアンタが謝罪するんだ？アンタが改悪した訳じゃ無いんだろ？」

そう言つと、さらに表情が暗くなつた…あれ？俺何かした？

「先ほど言つた能力をその神に渡したのは

……………私なんです……………」

……………えっ？

「私がああ神が退屈していたのを分かっていたら……………改悪されたものを修復出来ていれば

貴方はあんな辛い人生を歩む必要は無かつた……………私の所為なのに私は何も出来なかつた？だから、私は貴方に謝罪するんです。

本当に……………申し訳ありませんでした？」

そう言つて、頭を下げる女神……………俺の答え？

……………そんなモン決まつてる。

「頭を上げてくれ。俺はむしろアンタたちに感謝してる。」

「……………えっ？」

女神は頭に？マークを浮かべている。まっ……………当たり前か……………

「確かに俺の人生は改悪されたものだったかもしれない……………だが、そのおかげで俺は、沢山の人や精霊に会えた。自分が精霊やルシになつて……………力を得て……………人を守る事も出来た。何より、こうやってアンタと話も出来たしな。」

多分、昔の俺だったら……………今頃この場にはいなかったと思う。だから、俺はアンタやその改悪した神に感謝してるんだ。ありがとな？」

俺は、そう言いながら微笑んだ。……………まあ、たいしていい顔でも無いだろうがな……………

「う……………う……………」

……………ん？

「うわあああああっ!!」

「うわっ？」

いきなり泣きながら抱き付いて来た？っーか神も泣くんだな……………まあ、これで吹っ切れりゃあいいか……………

……………しばらくお待ち下さい……………

「……………ごめんなさい／＼貴方の服濡らしちゃって……………」

「ああ、気にしないでくれ。」

「優しいんですね……………貴方は……………」

「あまいの間違いじゃないか？」

まあ、吹っ切れたみたいで良かったが……………」

「何が良かったのですか？」

「え？心読まれた？」

「途中から声が出てましたよ。」

「うつつ、ハズいな……（汗）そう言えば、他に用は無いか？謝罪の為だけに天界に呼んだ訳じゃ無いんだろ？」

まさか謝罪の為だけにあの世に送らない訳じゃ無いだろ……

「はい…先ほど言った事のお詫びとして評議会は、貴方を転生しようという事を提案しているのですが……」

「なるほどな……なら、その転生先からあの世界に行けるのか？それの出来る出来ないによるが……」

俺の今の帰る場所は…あの世界だからな……

「ええ、可能ですよ。」

案の定、女神はそう言って微笑んだ。

……綺麗だと思っただのは秘密だ……

「そ、そうか……ちなみに何処に転生するんだ？」

「リリカルなのはの世界ですよ。」

「リリカルなのは？何処だ？そこ？」

「まあ、アニメの世界ですよ。貴方も初めてではないですよね？」

「え？そうなのか？」

「はい、今まで貴方は幾つかアニメの世界に行っているんですよ。」

「そうだったのか……知らなかった。」

まさかアニメの世界にね……

「分かった。行くよ、その世界に。」

「ありがとうございます。では、リリカルなのはの世界に転生しますね。後、大破したデバイスは転生と同時に修復するようにしますから、安心して下さい……お気をつけて……」

「ああ、行ってくる。」

そう言くと、俺は……光に包まれ……

転生した。

プロローグ（後書き）

「ホントにグダグダだな。しかも遅いし。」

うつつ……やっぱり俺には無謀だったかな……

「はあ、此処まで駄目作者だとはな………そういやあ、俺の過去はど
うするんだ？」

書く予定は無い？

「いや無いのかよ？」

うん……

「はあ………またこんなグダグダになるのかねえ………」

まあ……皆様からの意見や感想待ってます？

………来ないと思いますが……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2082ba/>

魔法少女リリカルなのは 転生した放浪者

2012年1月12日02時49分発行